

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	酒井 寛	実務経験とその関連資格	医学博士。国立循環器病センター病院、国立病院機構(大阪、京都、舞鶴など)に勤務。この間、病院付属の看護助産学校、リハビリテーション学院の講師、大阪大学医学部保健学科臨床地教授、国際協力事業団専門家など。			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士が現場で遭遇する疾患について病態、症状、所見、治療など基本的な内容について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
中間試験と期末試験にて記述試験をおこなう。その平均点評価:70% 出席評価:20%。レポート提出状況など平常評価:10%。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:臨床工学講座 臨床医学総論 参考書:目でみるからだのメカニズム、臨床工学技士標準テキスト、検査データ活用マニュアル、コメディカルのための内科学						
《授業外における学習方法》						
今回の授業内容を把握するため、事前に教科書の内容を確認すること。 配布する演習問題を次回講義までに解いておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床医学総論は範囲が広く、国家試験の出題数も多いため、ポイントを抑えることが大切である。解剖学、生理学、病理学、医用治療機器学との絡みも多く、疾患と関連させて理解すると記憶に残る学習が可能である。各疾患ごとに演習を実施し、理解力を確認する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内科学総論について現代医療の特徴や問題点、診療へのアプローチ方法を学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。	
		各コマにおける授業予定	医療職の動向、患者家族との関係、現代医療の特徴と最新の問題点、病歴とカルテ、診療のための一般的アプローチ、新しい治療法			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	疾患でみられる種々の症状と病態生理を考える。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。	
		各コマにおける授業予定	発熱、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、下痢、便秘、腹部膨満、出血傾向、胸痛、動悸、ショック、呼吸困難、口渇、めまいなど			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	治療中の管理事項を理解する。バイタルサインと緊急を要する病態を学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。	
		各コマにおける授業予定	酸・塩基平衡、電解質、体温調節、救急措置、心停止、昏睡			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染症の概説、ウイルス感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。	
		各コマにおける授業予定	微生物概説、感染症の症状・診断・治療・予防、ワクチン、インフルエンザ、麻疹、風疹、日本脳炎、後天性免疫不全症候群、流行性耳下腺炎、水痘、尖圭コンジローマ			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	クラミジア/リケッチア感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。	
		各コマにおける授業予定	クラミジア肺炎、オウム病、クラミジア性感染症、発疹チフス、ツツガムシ病			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細菌感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	結核、非結核性抗酸菌症、レジオネラ症、マイコプラズマ肺炎、黄色ブドウ球菌、百日咳、A群連鎖球菌、ジフテリア			
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細菌感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	細菌性赤痢、ペスト、コレラ、腸炎ビブリオ、細菌性食中毒、ボツリヌス、破傷風、ハンセン病、梅毒、腸チフス			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	真菌、原虫感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコッカス症、カンジタ症、アメーバ赤痢、マラリア、トリコモナス症			
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	寄生虫感染症の症状、検査所見、診断、治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	アニサキス症、フィラリア症、エキノコックス症			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	免疫に関与する細胞の種類とその作用、免疫のしくみを理解する。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	抗原、抗体、補体、免疫担当細胞、自然免疫と獲得免疫、免疫のしくみ			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患について分類とその機序、種々のアレルギー疾患を学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	アナフィラキシーショック、アレルギー性鼻炎、血液不適合輸血、リウマチ熱、急性糸球体腎炎、血清病、ツベルクリン反応、同種移植片拒絶反応、バセドウ病			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	免疫不全の種類、免疫不全の疾患について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	原発性/続発性免疫不全、無 γ グロブリン血症、胸腺低形成症、ウイスコット・アルドリッチ症候群、慢性肉芽腫症			
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己免疫疾患、膠原病など特徴を理解する。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、多発性/皮膚筋炎、全身性硬化症、慢性甲状腺炎			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己免疫疾患、膠原病など特徴を理解する。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	結節性動脈周囲炎、大動脈炎症候群、Sjögren症候群、混合性結合織病、ベーチェット病			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容について、要点を理解した上で問題を解くことができるようになる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
	各コマにおける授業予定	これまでの講義で国家試験問題からの演習を行い、講義内容の理解度を確認する。			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	酒井 寛	実務経験とその関連資格	医学博士。国立循環器病センター病院、国立病院機構(大阪、京都、舞鶴など)に勤務。この間、病院付属の看護助産学校、リハビリテーション学院の講師、大阪大学医学部保健学科臨床地教授、国際協力事業団専門家など。			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士が現場で遭遇する疾患について病態、症状、所見、治療など基本的な内容について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
中間試験と期末試験にて記述試験をおこなう。その平均点評価:70% 出席評価:20%。レポート提出状況など平常評価:10%。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:臨床工学講座 臨床医学総論 参考書:目でみるからだのメカニズム、臨床工学技士標準テキスト、検査データ活用マニュアル、コメディカルのための内科学						
《授業外における学習方法》						
今回の授業内容を把握するため、事前に教科書の内容を確認すること。 配布する演習問題を次回講義までに解いておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床医学総論は範囲が広く、国家試験の出題数も多いため、ポイントを抑えることが大切である。解剖学、生理学、病理学、医用治療機器学との絡みも多く、疾患と関連させて理解すると記憶に残る学習が可能である。各疾患ごとに演習を実施し、理解力を確認する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器感染症の概略、閉塞性肺疾患の特徴を理解する。	臨床医学総論 配布プリント		配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	感染症法、感染防御機構、定型肺炎、院内肺炎、COPD、気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫、びまん性汎細気管支炎			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	拘束性肺疾患の特徴と閉塞性肺疾患との差異を理解する。	臨床医学総論 配布プリント		配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	間質性肺炎、じん肺、珪肺、石綿肺、リンパ脈管筋腫症			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アレルギー関連肺炎、肺の代謝異常の疾患について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント		配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	過敏性肺臓炎、サルコイドーシス、PIE症候群、肺胞蛋白症、肺胞微石症、Good-pasture症候群			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸不全の診断基準、急性呼吸促迫症候群の病態、呼吸不全の治療について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント		配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸不全の定義と診断基準、急性呼吸促迫症候群、人工呼吸に伴う肺損傷、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肺の腫瘍性疾患について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント		配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、中皮腫			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肺循環疾患を理解する。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	急性肺血栓塞栓症、肺性心、肺水腫		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	胸膜疾患およびその他の疾患について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	気胸(原発性/続発性/医原性)、胸水貯留、胸膜炎、無気肺、過換気症候群		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心臓の診断学を理解し、心不全の病態と症状、血圧の異常について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	心臓疾患の主要徴候、循環器疾患の診断法、右心不全、左心不全、高血圧、低血圧		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	動脈および静脈の疾患について学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	動脈硬化、動脈閉塞、閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓血管炎、大動脈瘤、大動脈炎症候群、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	冠動脈疾患について病態、治療法などを学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	冠動脈疾患、狭心症、心筋梗塞、急性心筋梗塞後の機械的合併症		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	弁膜症について病態、治療法などを学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	僧帽弁狭窄症、僧帽弁逸脱症候群、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、感染性心内膜炎		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	先天性心疾患について病態、治療法などを学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、Fallot四徴症		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	不整脈の分類、および各不整脈の特徴を理解する。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	心房細動、心房粗動、WPW症候群、心室頻拍、心室細動、房室ブロック、洞不全症候群		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心筋炎、心筋症、肺動脈疾患の病態、治療法などを学ぶ。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、急性肺血栓塞栓症、原発性肺高血圧症		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容について、要点を理解した上で問題を解くことができるようになる。	臨床医学総論 配布プリント	配布された資料、演習問題を予習する。
		各コマにおける授業予定	これまでの講義で国家試験問題からの演習を行い、講義内容の理解度を確認する。		